

# Consolidated Business Results & Forecasts

## 2022年3月期 第3四半期決算説明会

2022年1月28日

### 株式会社SCREENホールディングス

#### 内容：

- ・ 3Q累計 連結決算の概要 専務取締役（CFO） 近藤 洋一
- ・ 事業環境および業績予想 代表取締役 取締役社長（CEO） 廣江 敏朗

#### 資料取り扱い上の注意

- ・ 本資料および口頭にて提供する業績予想は、当社が発表日現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績などは様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- ・ 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切り捨てで処理しております。比率は四捨五入しております。
- ・ 本資料では、例えば、「FY2022/03」と示す場合、2021年4月1日～2022年3月31日の会計期間を表します。

# 3Q累計 連結決算の概要

2022年1月28日

---

株式会社SCREENホールディングス  
専務取締役 最高財務責任者 (CFO)

近藤 洋一

## 3Q累計 連結決算の概要

### 3Q累計 決算実績

- 全社：全般的に堅調。前年同期比で増収増益、営業利益は3.1倍に
- SPE：営業利益率は18%台に上昇
- SPE：3Q受注高1,015億円、3四半期連続で過去最高を更新
- ネットキャッシュ733億円、CFは引き続き強めに安定推移

# FY2022/03 3Q 連結業績

前年同期比

(億円)	FY2021/03						FY2022/03				前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	累計		
売上高	668	758	737	2,164	1,038	3,203	828	1,043	1,039	2,911	746	34.5%
営業利益 営業利益率	18 2.8%	46 6.1%	63 8.6%	127 5.9%	116 11.3%	244 7.6%	86 10.5%	153 14.7%	160 15.5%	401 13.8%	273	213.8% 7.9pt
経常利益	19	34	58	112	114	227	86	151	161	399	286	254.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	13	45	79	72	151	60	115	120	296	216	271.9%

# FY2022/03 3Q 連結業績

前年同期比

(億円)	FY2021/03						FY2022/03					前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	累計	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	累計			
<b>売上高</b>	<b>668</b>	<b>758</b>	<b>737</b>	<b>2,164</b>	<b>1,038</b>	<b>3,203</b>	<b>828</b>	<b>1,043</b>	<b>1,039</b>	<b>2,911</b>	<b>746</b>	<b>34.5%</b>	
SPE	526	547	545	1,620	735	2,355	597	816	846	2,261	641	39.6%	
GA	79	90	93	262	111	374	96	112	99	309	46	17.8%	
FT	36	89	71	198	149	347	102	72	55	231	33	16.7%	
PE	23	23	22	69	34	104	23	34	33	92	22	32.5%	
その他および調整	2	7	4	14	7	22	8	5	2	17	2	19.8%	
<b>営業利益</b>	<b>18</b>	<b>46</b>	<b>63</b>	<b>127</b>	<b>116</b>	<b>244</b>	<b>86</b>	<b>153</b>	<b>160</b>	<b>401</b>	<b>273</b>	<b>213.8%</b>	
営業利益率	2.8%	6.1%	8.6%	5.9%	11.3%	7.6%	10.5%	14.7%	15.5%	13.8%	7.9pt		
SPE	42	44	64	152	107	259	88	154	171	414	261	172.2%	
GA	△3	1	1	△0	5	5	2	4	4	11	11	-	
FT	△15	4	1	△8	13	4	2	△0	△3	△1	7	-	
PE	1	1	0	3	4	7	2	7	6	15	12	414.1%	
その他および調整	△6	△6	△5	△18	△14	△32	△8	△10	△17	△37	△19	-	
<b>経常利益</b>	<b>19</b>	<b>34</b>	<b>58</b>	<b>112</b>	<b>114</b>	<b>227</b>	<b>86</b>	<b>151</b>	<b>161</b>	<b>399</b>	<b>286</b>	<b>254.4%</b>	
親会社株主に帰属する 当期純利益	19	13	45	79	72	151	60	115	120	296	216	271.9%	

■ SPE : 半導体製造装置事業      ■ GA : グラフィックアーツ機器事業  
■ FT : ディスプレー製造装置および成膜装置事業      ■ PE : プリント基板関連機器事業

# FY2022/03 3Q 連結業績

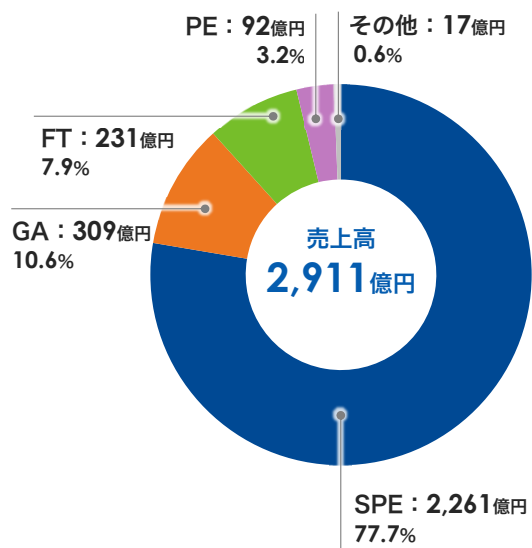
セグメント別

■ 3Q累計、前年同期比 (YoY) □ 3Q、2Q比 (QoQ)

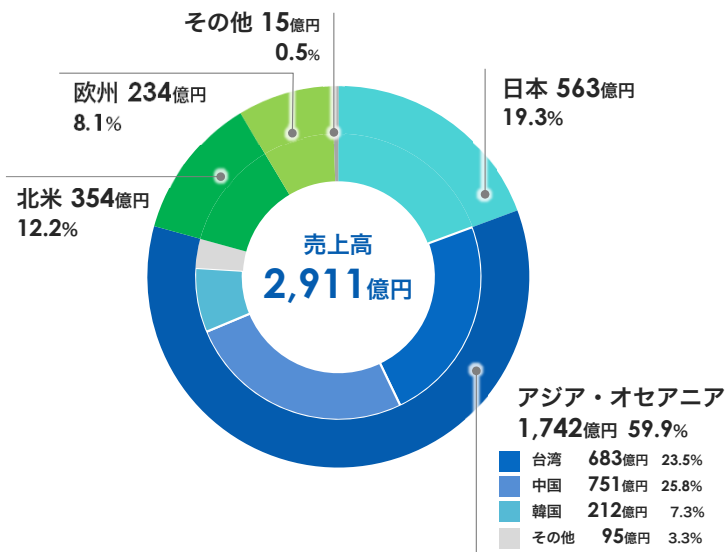
		FY2021/03				FY2022/03				
		1Q	2Q	3Q	累計	1Q	2Q	3Q	累計	
		(億円)								
SPE	ファウンドリー、メモリー、ロジック向け売上が大幅に増加 地域別では台湾中心に、北米、欧州向け売上が増加	売上	526	547	545	1,620	597	816	846	2,261
	画像素子、パワー、DRAMが増加	営業利益 営業利益率	42 8.1%	44 8.2%	64 11.9%	152 9.4%	88 14.9%	154 18.9%	171 20.2%	414 18.3%
GA	顧客の装置稼働状況、設備投資意欲の回復を受け、 POD装置やRB (リカーリングビジネス) とともに売上増加	売上	79	90	93	262	96	112	99	309
	RBは増加、引き続き堅調	営業利益 営業利益率	△3 △5.0%	1 1.9%	1 2.1%	△0 △0.1%	2 2.7%	4 3.6%	4 4.3%	11 3.6%
FT	OLED用中小型パネル向け製造装置で売上増加 採算性改善するも営業損失	売上	36	89	71	198	102	72	55	231
	売上減は想定内。4Qには黒字回復見込む	営業利益 営業利益率	△15 △41.4%	4 5.2%	1 2.5%	△8 △4.4%	2 2.2%	△0 △0.9%	△3 △5.5%	△1 △0.6%
PE	直接描画装置の売上が増加、利益は大幅増加	売上	23	23	22	69	23	34	33	92
	5G関連は引き続き堅調。利益率は高水準で推移	営業利益 営業利益率	1 5.2%	1 6.2%	0 1.4%	3 4.3%	2 9.0%	7 21.0%	6 17.8%	15 16.8%

# FY2022/03 3Q累計 連結業績

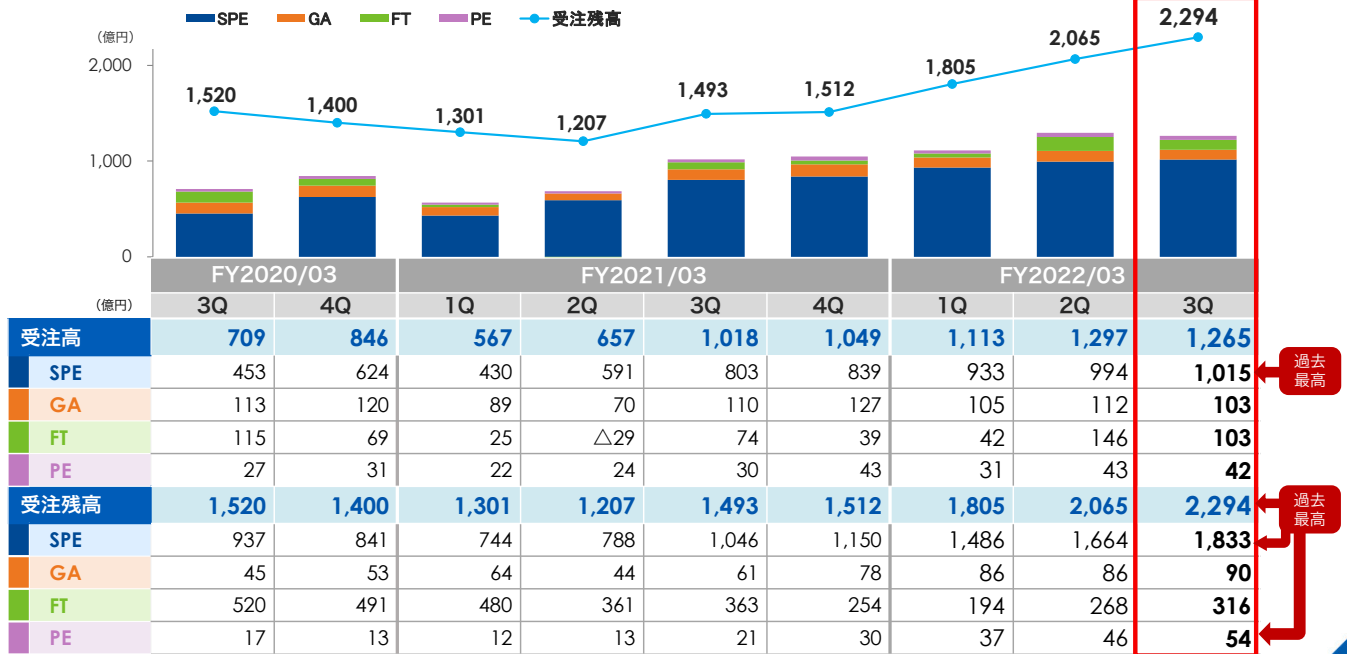
## セグメント別売上高



## 地域別売上高



## 連結受注高／受注残高の四半期推移



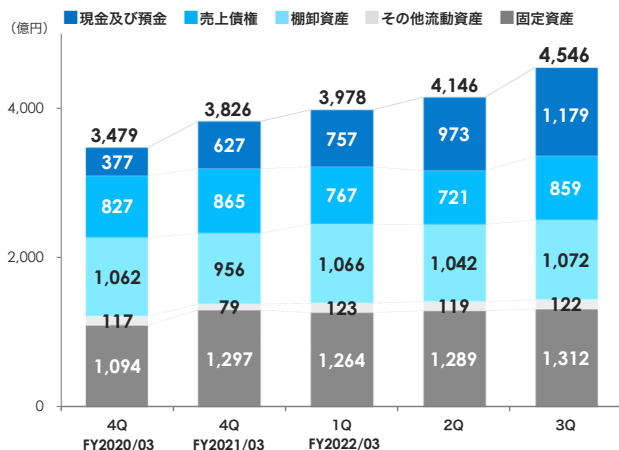
- 全社の3Q受注高は、5四半期連続の1,000億円超えの高水準となりました  
SPEの3Q受注高は、3四半期連続で過去最高を更新し、1,015億円となりました

- 全社の3Q受注残高は、過去最高の2,294億円となりました

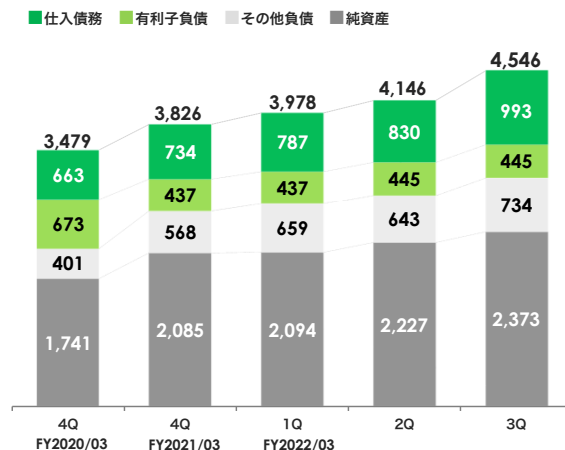


## 財務状況：連結貸借対照表

### 資産



### 負債および純資産



■ 自己資本比率は52.2% (FY2022/03 3Q)

■ 増収局面でもCFは安定推移。733億円のネットキャッシュ

● 総資産：4,546億円となりました

● 資産の部

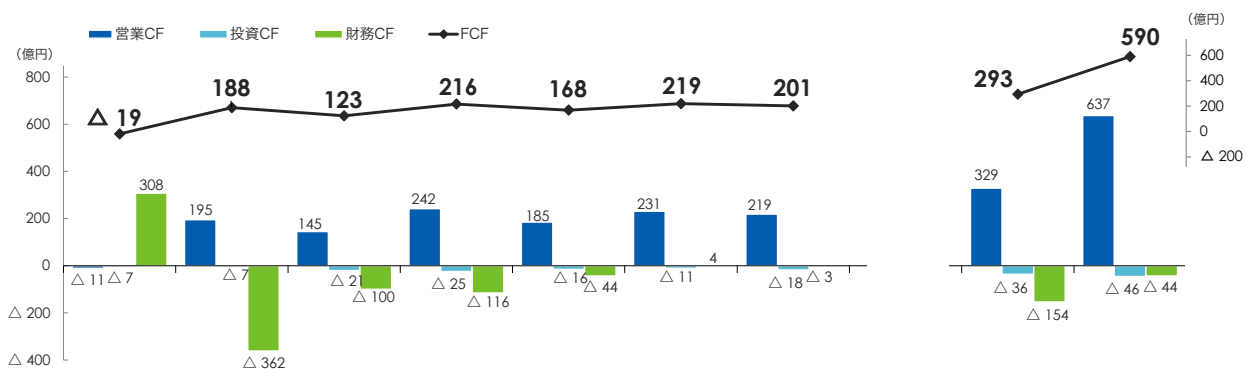
- ・ 現金及び預金や棚卸資産が増加したことなどから、前年度末に比べ720億円増加し、4,546億円となりました

● 負債および純資産の部

- ・ 負債は、仕入債務や契約負債が増加したことなどにより、前年度末に比べ432億円増加し、2,173億円となりました
- ・ 純資産は、配当金の支払いの一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上などにより、前年度末に比べ287億円増加し、2,373億円となりました

● 以上の結果、自己資本比率は52.2%でした

## 財務状況：連結キャッシュ・フロー



(億円)	FY2021/03				FY2022/03		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
営業CF	△11	195	145	242	185	231	<b>219</b>
投資CF	△7	△7	△21	△25	△16	△11	<b>△18</b>
FCF	△19	188	123	216	168	219	<b>201</b>
財務CF	308	△362	△100	△116	△44	4	<b>△3</b>

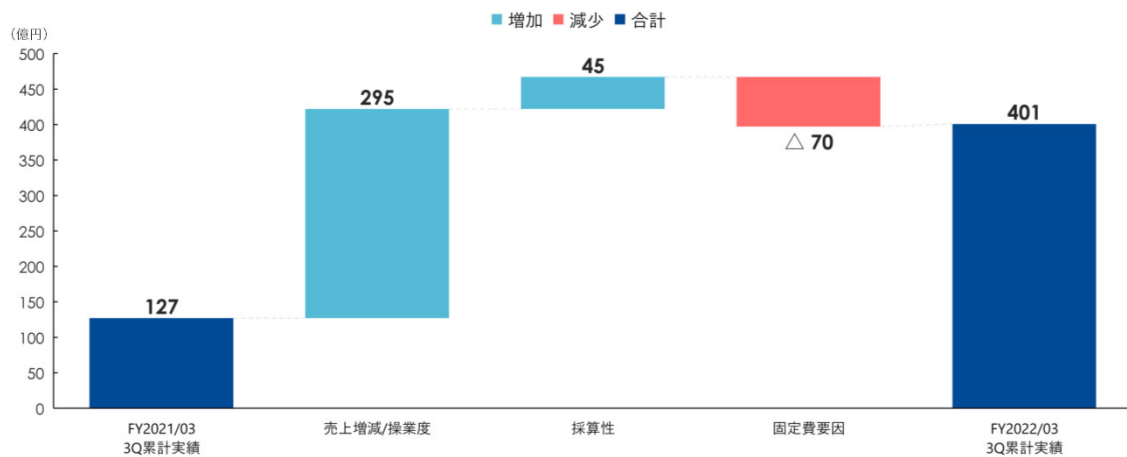
FY2021/03	FY2022/03
3Q累計	3Q累計
329	<b>637</b>
△36	<b>△46</b>
293	<b>590</b>
△154	<b>△44</b>

※ FCF：フリーキャッシュ・フロー

■ 営業CFは営業利益を超える水準

## 営業利益増減分析

### ■ FY2021/03 3Q累計 vs FY2022/03 3Q累計



>>主にSPEの売上増、SPEの採算性改善により利益増加  
>>固定費の増加は主にSPE。業績連動賞与や研究開発費などが増加

## FY2021/03 3Q累計 vs FY2022/03 3Q累計

### ●売上増減/操業度：+295億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●採算性：+45億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●固定費要因：△70億円程度

>>マイナス要因のほとんどがSPEで、好業績を受けた業績連動賞与増加、研究開発費の増加などです

# 事業環境および業績予想

2022年1月28日

---

株式会社SCREENホールディングス  
代表取締役 取締役社長 最高経営責任者 (CEO)

**廣江 敏朗**

## 事業環境および業績予想

### ■ 事業環境

- 全社：全般的に堅調。前年同期比で増収増益、営業利益は3.1倍に
- SPE：3Q受注高1,015億円、3四半期連続で過去最高を更新  
ファウンドリーが堅調に受注を牽引。フラッシュ大幅増
- GA、FT、PE：受注は2Qに続いて堅調

### ■ 通期業績予想

- 10月予想から変更なし
- 3Qまでの業績、ほぼ想定どおり順調に進捗。足元は部材不足による納期対応を管理、過去最高の売上・利益の達成を目指す

## 市場動向および見通し

SPE

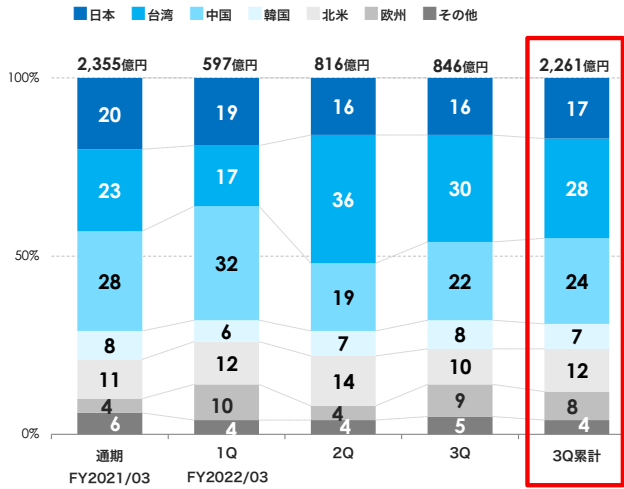
- **WFE**：最先端や成熟ノード向けファウンドリー、ロジックの強気な投資継続
  - ・2024年稼働に向けた各プロジェクトは着実に進行
  - ・CY2022は前年比+10%以上の伸びを予想（\$100bn程度）

### ● アプリケーション別の動向：

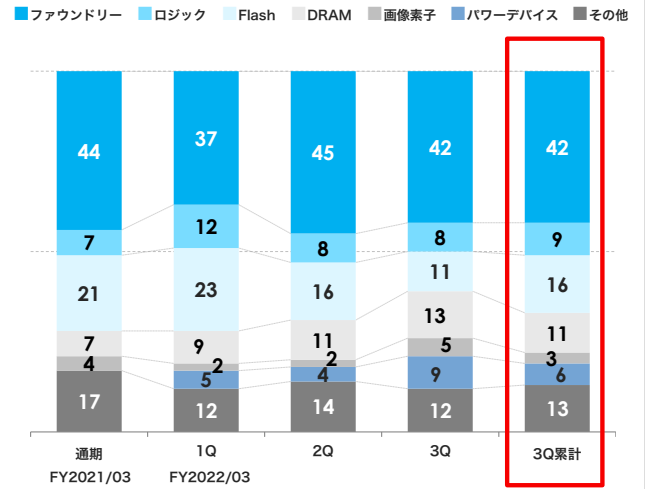
ファウンドリー	先端・成熟ノード半導体需要は依然活況。微細化に伴う洗浄ニーズ増も
ロジック	最先端品の生産外部委託決めるも、自社開発への投資も継続
メモリー	DRAMは今後微細化、NANDは積層化への投資が継続
画像素子	既存大手だけでなく中国新興やファウンドリーでの投資など活発
パワー	欧州、日本中心に一定規模での投資が続く見込み
中国市場	成熟ノードファウンドリー中心に、メモリー、パワーなどバラエティに富む
その他	アナログ、センサー、光学等も堅調な投資が続く

- ▶ 最先端ノードへのパイプラインを重視、POR確保を目指す
- ▶ 量産からレガシーノードまで、多様なソリューションの提供 → 供給責任を果たすべく、万全な開発・生産体制で臨む

■ 連結・地域別 - 仕向地ベース



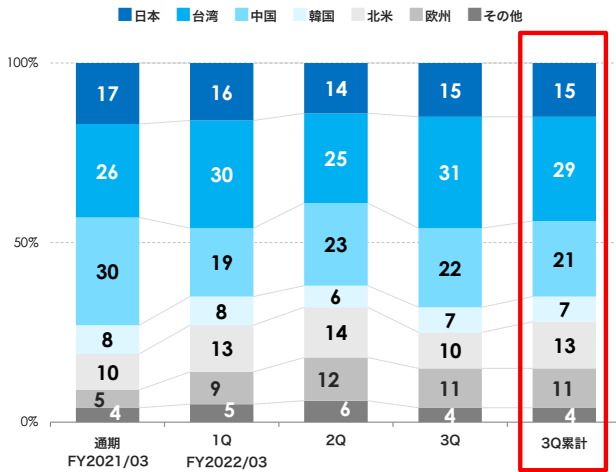
■ 単独・アプリケーション (デバイス) 別



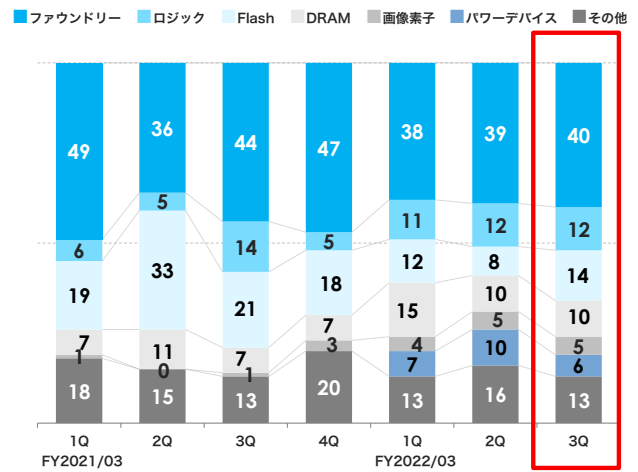
■ 地域別：3Q累計 (YoY)、台湾、欧州で売上増加。3Q (QoQ) は中国、欧州で増加  
 ■ アプリケーション別：3Q累計 (YoY)、DRAM増、ロジック微増  
 3Q (QoQ)、ファウンドリー、ロジック堅調。パワー、画像素子、DRAM増加

# 単独・受注高比率

## 地域別 - 仕向地ベース



## アプリケーション (デバイス) 別 - 四半期推移

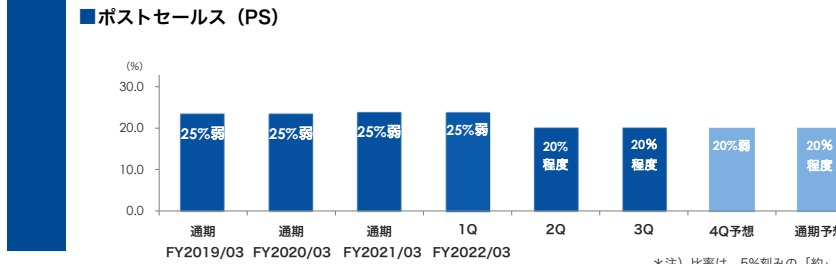
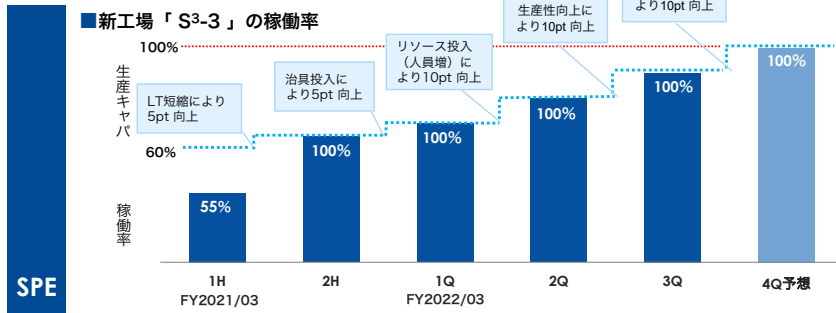


- 地域別：3Q (QoQ)、台湾大幅増、日本、韓国で微増
- アプリケーション別：3Q (QoQ)、ファウンドリーが堅調に受注を牽引。Flash大幅増
- 今後の受注：900億円超えの高水準が続く見込み

- 3Q受注高 (連結) は、1,015億円となりました
- 4Q受注高ガイダンスは、3Q同等の強い受注が続く見込みです

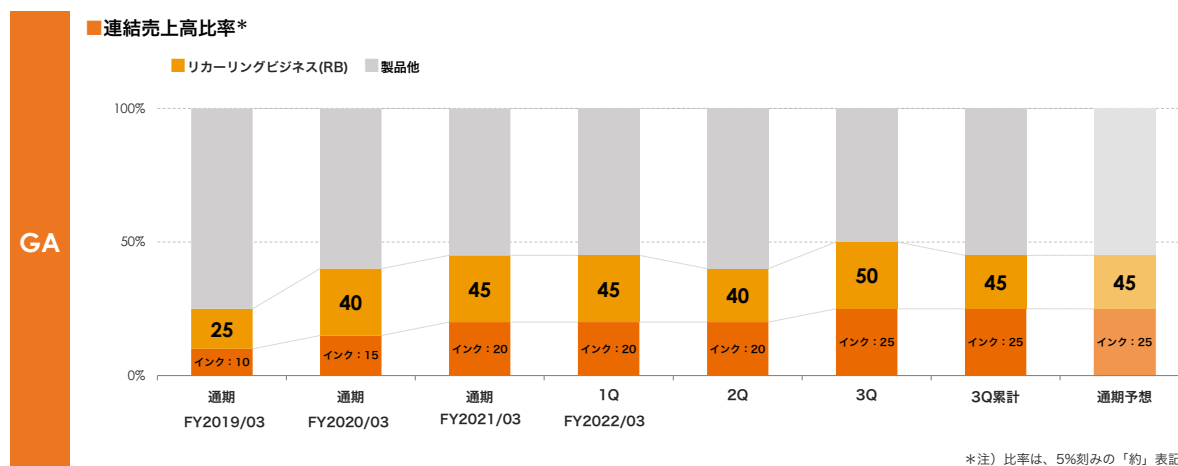


## ■ その他指標



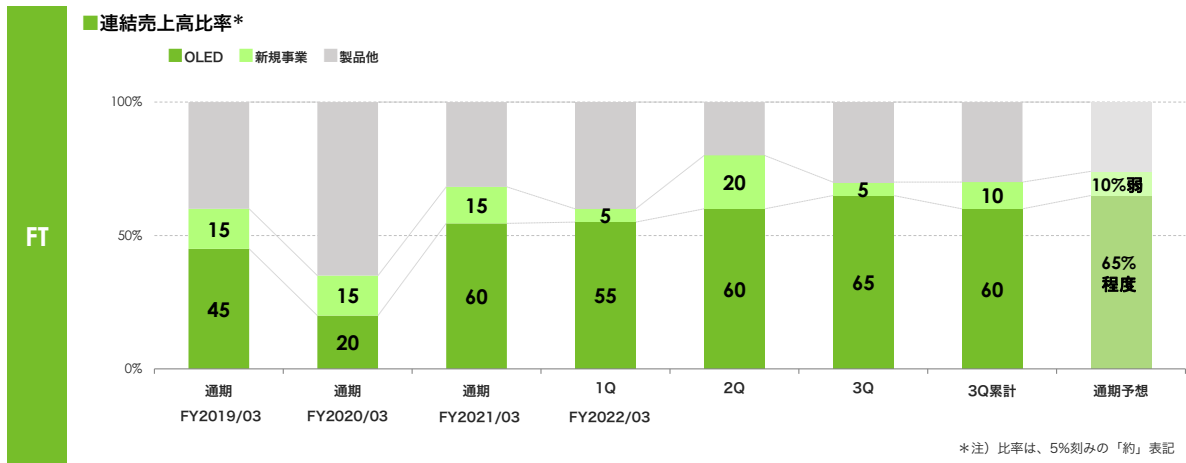
- 3QでS<sup>3</sup>-3の生産能力はフルキャパに到達。稼働率は100%を継続
- 今後はさらなるリードタイム短縮や稼働時間延長などによりキャパ向上を目指す
- FTの設備転用により10%のキャパアップ完了
- 新棟S<sup>3</sup>-4竣工後は、構内生産フローを改善し、20%以上のキャパアップを目指す (2023年1月稼働予定)
- 3Q：QoQ売上ボリュームは着実に増加
- 4Q：装置本体出荷に集中し、PS売上は3Q同等を見込む

## リカーリングビジネスは安定推移



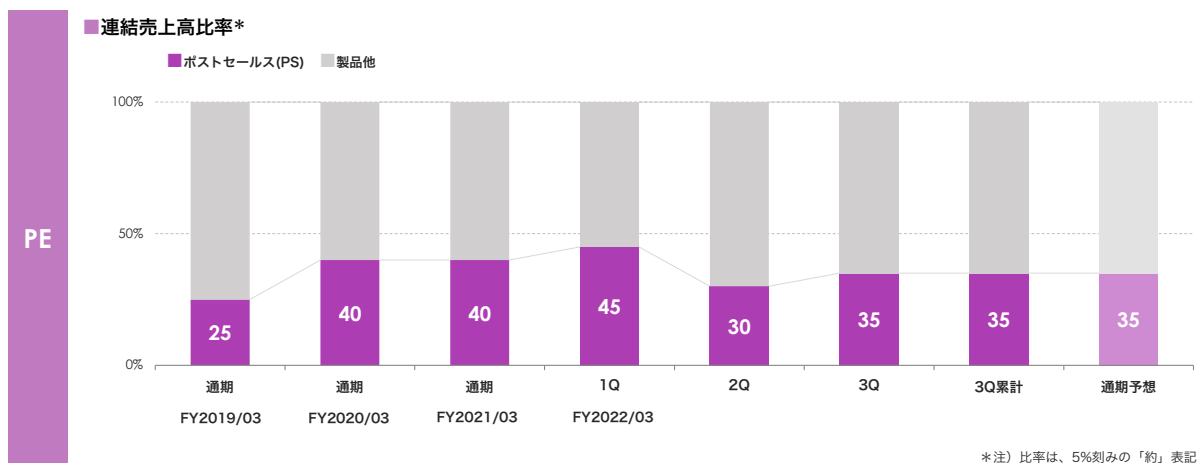
- インクを中心とするリカーリングビジネス (RB)は堅調に推移
- 部材不足、輸送費のコスト高を抑制しつつ、回復基調にある北米、欧州でのPOD需要に注力

## 3Q、スマホ用中小型向けLCD案件を受注



- 3Q、連結受注高は103億円（LCD中心）、4Qは中小型向けOLED中心に数十億円レベルを見込む
- 通期、売上は中小型向けOLEDが中心と予想

## ■ ポストセールスは安定推移



\*注) 比率は、5%刻みの「約」表記

- ポストセールスは安定推移
- 期末に向け、5G（モバイル、サーバー向け）、パッケージ向け需要が引き続き旺盛
- 新製品（Ledia Twin）は順調に顧客浸透。来期はさらなる売上増に期待

# FY2022/03 業績予想 (2022年1月28日時点)

※   は過去最高

(億円)	FY2021/03		FY2022/03			
	通期実績	上期実績	下期		通期	
			7月発表 予想	10月・1月 発表予想	7月発表 予想	10月・1月 発表予想
<b>売上高</b>	<b>3,203</b>	<b>1,872</b>	<b>2,060</b>	<b>2,218</b>	<b>3,915</b>	<b>4,090</b>
SPE	2,355	1,414	1,640	1,786	3,055	3,200
GA	374	209	190	191	380	400
FT	347	175	155	154	330	330
PE	104	58	60	72	120	130
その他および調整	22	14	15	16	30	30
<b>営業利益</b>	<b>244</b>	<b>240</b>	<b>250</b>	<b>304</b>	<b>445</b>	<b>545</b>
営業利益率	7.6%	12.9%	12.1%	13.7%	11.4%	13.3%
SPE	259	243	270*	335*	485*	580*
GA	5	6	5*	5*	5*	10*
FT	4	1	0*	△0*	0*	0*
PE	7	9	5*	10*	10*	20*
その他および調整	△32	△19	△30*	△45*	△55*	△65*
<b>経常利益</b>	<b>227</b>	<b>237</b>	<b>230</b>	<b>277</b>	<b>410</b>	<b>515</b>
親会社株主に帰属する 当期純利益	<b>151</b>	<b>176</b>	<b>155</b>	<b>184</b>	<b>280</b>	<b>360</b>

注) FY2022/03 (通期) 想定為替レート>> 1USD=¥110、1EUR=¥130  
 想定為替感応度 (通期営業利益ベース) >> 対USD: ¥1.1億、対EUR: ¥0.3億

\* セグメント別営業利益予想: 5億円刻みの「約」表記

## ● 全社 :

- ・ 通期の業績予想については、10月に発表した予想内容を据え置き、売上高、営業利益、営業利益率、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益はすべて過去最高になる見込みです
- ・ 中期経営計画の経済的価値の目標のうち、「全社・売上高 4,000億円以上」については2期目の今期に達成の見込みです

(億円)	上期実績	3Q累計実績	通期予想
減価償却費	47	71	100
設備投資額	41	68	130
研究開発費	105	165	240

## &gt;&gt;配当予想について

- ・純利益の大幅増加を踏まえ231円に増配（10月予想、据え置き）
- ・中期経営計画の連結総還元性向30%以上方針に沿って、株主の皆様へ還元

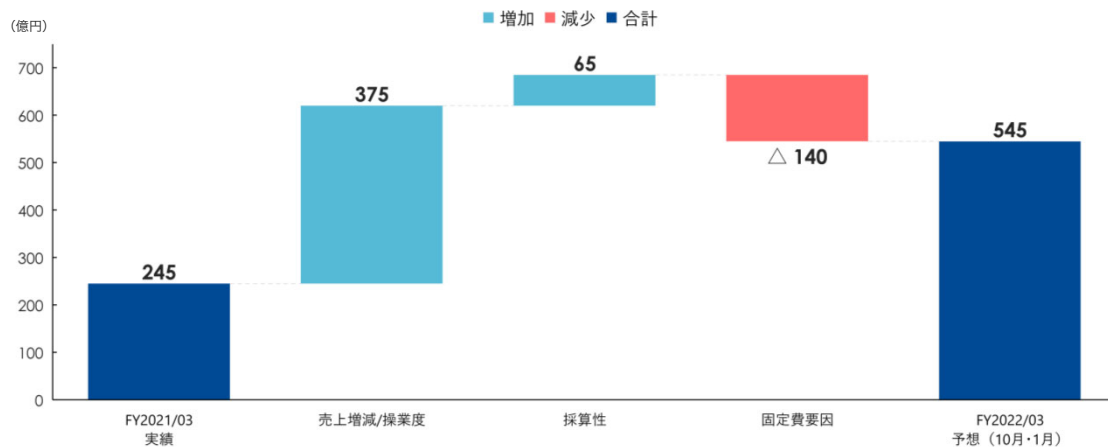
(円)	通期
1株当たり配当予想	231

●今期の減価償却、設備投資、研究開発費は10月予想から変更はありません

●期末配当につきましても、10月予想から変更はなく、過去最高になる見込みです

## 営業利益増減分析

### FY2021/03実績 vs FY2022/03予想 (10月・1月)



>>売上増、採算性改善はほとんどがSPE  
>>固定費の増加は主にSPE。業績連動賞与や研究開発費などが増加

※利益要因は、5億円刻みの「約」表記

## FY2021/03実績 vs FY2022/03予想 (10月・1月)

### ●売上増減/操業度：+375億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●採算性：+65億円程度

>>ほとんどがSPEです

### ●固定費要因：△140億円程度

>>マイナス要因のほとんどがSPEで、好業績を受けた業績連動賞与増加、研究開発費の増加などです

## 最近のグループニュース（Webサイトより抜粋：2021年10月28日～2022年1月28日）

HD

- 令和3年度近畿地方発明表彰「特許庁長官賞」を受賞  
～「UV-LED複数波長露光式直接描画装置」の発明～
- 京都府内の児童養護施設8カ所に収穫米を寄付
- 革新的な「がん個別化医療」の実現に向けた共同研究を開始
- TCFD提言への賛同を表明
- 京都市呉竹総合支援学校で開催の『青空美術館』用のパネルを寄贈
- 新市場区分「プライム市場」への移行について
- 次世代パターン用直接描画装置「LeVina」を開発

SPE

- 次なるステージへ、半導体製造装置の生産体制を強化  
～2023年1月より新工場の操業を開始～



## ■次なるステージへ、半導体製造装置の生産体制を強化

- 生産能力強化および生産効率向上を主眼に置き、2018年に策定した中長期の生産整備計画「彦根グランドデザイン」の一環として、彦根事業所内に新工場となる「S<sup>3</sup>-4（エス・キューブフォー）」建設を中心とした設備投資を前倒しで実施。

\*新工場の操業開始は2023年1月を予定

### ■概要

- ・ 総工費：100億円規模  
→新工場S<sup>3</sup>-4建設のほか、生産能力増強に伴う廃液処理や人員増加のための施設拡充、既存設備の改修、厚生施設の建設なども行う
- ・ S<sup>3</sup>-4は、枚葉式洗浄装置「SUシリーズ」の主力工場 S<sup>3</sup>-3に連結する形で隣接予定  
→S<sup>3</sup>-3内の大型立体自動倉庫から自動搬送される部品からユニットや装置を組み立て、出荷前洗浄に至る生産プロセスをシームレスに、従前よりさらに効率化する

>> 「彦根グランドデザイン」をベースに、好況が見込まれるデバイスメーカーへの製造装置の安定供給を果たすとともに、SBT※の達成に向け、今回の設備投資における再生エネルギー採用、空調設備更新など、省エネルギー投資も継続的に進めてまいります。

※ SBT（Science Based Targets イニシアチブ）：科学的根拠に基づいたCO2排出削減目標の設定を求める、地球温暖化防止に向けた国際的なイニシアチブ

## 次世代パターン用直接描画装置「LeVina」を開発

DXの進展を受け、半導体チップ高度化への要求は「低遅延」「高速化」「省電力」デバイスの開発に移ってきている。その実現のため、前工程の微細化技術と並んで、実装工程の高度パッケージング技術の重要性が注目されており、SCREEN HDでは、高度パッケージング技術へのソリューション開発を実施。その成果第一弾として、次世代パターン用直接描画装置「LeVina」をリリース。今後も、同分野へのソリューション展開を目指す。

- PEの主力機種「Lediaシリーズ」をベースに、独自開発の「GLV光学エンジン」を描画ヘッドに搭載。光学システムによるレーザー制御技術を融合し、世界最高水準の解像度5 $\mu$ mを実現
- 毎秒480mm移動する高速ステージの採用、スキャンアライメント機能<sup>※</sup>の搭載により、ラインアンドスペース5 $\mu$ mの解像度で1時間あたり100枚の高速量産を実現
- 2022年4月販売開始

※スキャンアライメント機能…アライメント（位置決め）マークをカメラを静止させずにスキャンで高速読込をする機能



>>5G/ポスト5G関連やIoTインフラを中心に拡大が続くパッケージ基板市場へのビジネス展開を加速  
>>今後も半導体パッケージ業界のさまざまなニーズに応え、同業界の発展に貢献

## ESG関連の取り組み

### E (環境)

- 「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)」 提言への賛同を表明  
→シナリオ分析、開示に向けPJ進行中
- 本社、彦根・多賀事業所、再生可能エネルギー電力の運用を開始 (2022年1月～)  
→施設・設備の省エネルギー化を継続実施中
- CDPスコア 気候変動：B (前年A-) 水セキュリティ：A- (前年A-)

### S (社会)

- 第3回コロナワクチン職域接種 (本社、彦根) 実施予定

### G (ガバナンス)

- 東証・新市場区分「プライム市場」への移行 (2022年4月4日予定)  
→高いガバナンス水準の維持、投資家の皆さまとの建設的な対話を継続
- 当社ウェブサイトが、日興アイ・アール株式会社「2021年度 全上場企業ホームページ 充実度ランキング」の「総合表彰 優良サイト」に選定



## ■新市場区分「プライム市場」への移行

- 株式会社東京証券取引所より、当社が「プライム市場」に移行（2022年4月4日予定）となる旨の結果が公表された（1月11日）

## ■「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」提言への賛同を表明

- 金融安定理事会により設置された「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」による提言への賛同を表明、同提言に賛同する企業・金融機関等により構成される「TCFDコンソーシアム」へ参画。パリ協定による気候変動への対応、SDGsで掲げられた社会課題解決を目指し、社会的価値向上の中期指針「Sustainable Value 2023」において具体化した目標を掲げ、ESGを重視した取り組みを積極的に展開。



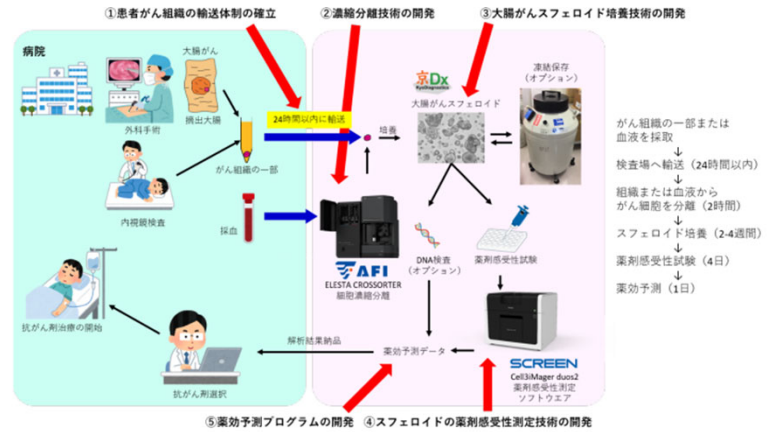
■革新的な「がん個別化医療」の実現に向けた共同研究を開始

- 京都大学、AFIテクノロジー、京ダイアグノスティクス、SCREENは、京都大学の産官学連携制度「産学共同講座※」を活用、患者さまの細胞を用いて体外で高精度に治療効果を予測する、革新的ながん個別化医療の開発を目的とした共同研究を本格始動。

※産学共同講座

研究科の講座や組織、教育研究施設において行われる、産官学連携によるプロジェクト型共同研究のこと。運営に必要な経費については、民間機関からの共同研究費等の資金を充てる。

■がんの治療効果予測システム（イメージ）



>>各社の技術やノウハウを融合して実証実験を行い、2年後をめどにがんの治療効果予測システムの完成を目指す

## Appendix&gt;&gt; セグメント別業績

SPE

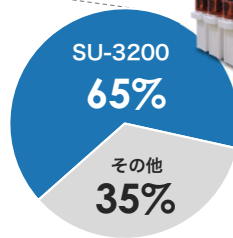
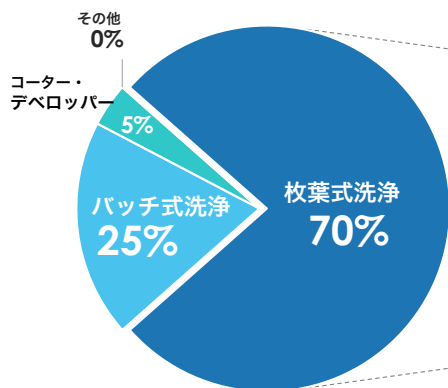
## 前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	(億円) 3Q累計	3Q累計		
売上高	1,620	<b>2,261</b>	<b>641</b>	<b>39.6%</b>
営業利益 営業利益率	152 9.4%	<b>414</b> 18.3%	<b>261</b>	<b>172.2%</b> 8.9pt

## 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	(億円) 2Q	3Q		
売上高	816	<b>846</b>	<b>29</b>	<b>3.7%</b>
営業利益 営業利益率	154 18.9%	<b>171</b> 20.2%	<b>16</b>	<b>11.0%</b> 1.3pt

洗淨装置 製品別売上高比率 - FY2022/03 3Q累計



(%)	FY2019/03 通期	FY2020/03 通期	FY2021/03 通期	FY2022/03 3Q累計
枚葉	65	65	70	<b>70</b>
パッチ	20	25	25	<b>25</b>
コーデベ	10	5	5	<b>5</b>
その他	5	5	0	<b>0</b>

※上記比率は、5%刻みの「約」表記

## Appendix>> セグメント別業績

GA

### 前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	3Q累計	3Q累計		
(億円)				
売上高	262	309	46	17.8%
営業利益 営業利益率	△0 △0.1%	11 3.6%	11	- 3.7pt

### 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	2Q	3Q		
(億円)				
売上高	112	99	△12	△11.4%
営業利益 営業利益率	4 3.6%	4 4.3%	0	7.0% 0.7pt



## Appendix>> セグメント別業績

FT

### 前年同期比

	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	3Q累計	3Q累計		
(億円)				
売上高	198	<b>231</b>	<b>33</b>	<b>16.7%</b>
営業利益 営業利益率	△8 △4.4%	△1 △0.6%	<b>7</b>	- <b>3.8pt</b>

### 前四半期比

	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	2Q	3Q		
(億円)				
売上高	72	<b>55</b>	△17	△24.1%
営業利益 営業利益率	△0 △0.9%	△3 △5.5%	△2	- △4.6pt

## Appendix>> セグメント別業績

PE

### 前年同期比

(億円)	FY2021/03	FY2022/03	増減	
	3Q累計	3Q累計		
売上高	69	92	22	32.5%
営業利益 営業利益率	3 4.3%	15 16.8%	12	414.1% 12.4pt

### 前四半期比

(億円)	FY2022/03	FY2022/03	増減	
	2Q	3Q		
売上高	34	33	△0	△2.7%
営業利益 営業利益率	7 21.0%	6 17.8%	△1	△17.7% △3.2pt

## Appendix>> 主要数値の変遷

(億円)	FY2017/03	FY2018/03	FY2019/03	FY2020/03	FY2021/03	FY2022/03 予想
売上高	3,002	3,393	3,642	3,232	3,203	<b>4,090</b>
営業利益	337	427	296	125	244	<b>545</b>
営業利益率 (%)	11.2	12.6	8.1	3.9	7.6	<b>13.3</b>
総資産	3,006	3,658	3,809	3,479	3,826	-
自己資本	1,428	1,708	1,791	1,739	2,083	-
自己資本比率 (%)	47.5	46.7	47.0	50.0	54.5	-
ROE (%)	18.4	18.2	10.3	2.8	7.9	-
減価償却費	53	57	68	88	96	<b>100</b>
設備投資額	82	144	240	79	78	<b>130</b>
研究開発費	177	208	228	215	215	<b>240</b>
EPS (円)	511.96	608.62	387.10	107.37	325.21	<b>772.97</b>
期末配当 (円)	87	110	97	30	90	<b>231</b>



**Innovation for a Sustainable World**